

李林熹 (東京工業大学)



氏名 / Name	李林熹	コンセプト / Concept
所属 / Affiliation	東京工業大学	高齢化や地域社会の空洞化の問題を解決するために、既存の住宅モデルの障壁を打ち破り、住民間でより多くの活動や対話を生み出す方法を見つけるのは必要がある。私たちは賃貸モジュールを構想しました。このモジュールには、寝ていたり場所や専用の保存場所に加えて、外の世界に情報を伝えたり受け取ったりするためのボックスがあります。さまざまなモジュールを組み合わせることでコミュニケーションするために、人々は自分のニーズに合わせてこの賃貸モジュールを移動できます。さらに、人々はさまざまなタイプの公共スペースを組み合わせることによって多様な活動を組織することができます。
部門 / Section	コミュニティデザイン部門 / 社会問題解決型住居部門	

アイデア / Idea

自由にかたまりたり組み合わせたりできる賃貸モジュール

基本モジュール

- 収納作業
- 睡眠
- 自由にデザインできるボックス
- 自由に移動させるフレーム

私たちは賃貸モジュールを構想しました。このモジュールには、寝ていたり場所や専用の保存場所に加えて、外の世界に情報を伝えたり受け取ったりするためのボックスがあります。このボックスは人々自分の趣味や職業に合わせてデザインされ、メディアとしてコミュニティと交差することができます。たとえば、自分個々の本や育てた植物などを展示して、同じ趣味や職業を持っている人を探求することである。

使用者は自分のニーズによりこのモジュールを移動して、様々な居住や交流方法を創造できる。さらに、モジュールの移動を通してさまざまなタイプの公共スペースを組み合わせることで多様な活動を組織することができます。

自由にかたまりたり組み合わせたりできる賃貸モジュール

- 基本モジュール
- 収納作業
- 睡眠
- 自由にデザインできるボックス
- 自由に移動させるフレーム

私たちは賃貸モジュールを構想しました。このモジュールには、寝ていたり場所や専用の保存場所に加えて、外の世界に情報を伝えたり受け取ったりするためのボックスがあります。このボックスは人々自分の趣味や職業に合わせてデザインされ、メディアとしてコミュニティと交差することができます。たとえば、自分個々の本や育てた植物などを展示して、同じ趣味や職業を持っている人を探求することである。

使用者は自分のニーズによりこのモジュールを移動して、様々な居住や交流方法を創造できる。さらに、モジュールの移動を通してさまざまなタイプの公共スペースを組み合わせることで多様な活動を組織することができます。

自由にかたまりたり組み合わせたりできる賃貸モジュール

- 基本モジュール
- 収納作業
- 睡眠
- 自由にデザインできるボックス
- 自由に移動させるフレーム

私たちは賃貸モジュールを構想しました。このモジュールには、寝ていたり場所や専用の保存場所に加えて、外の世界に情報を伝えたり受け取ったりするためのボックスがあります。このボックスは人々自分の趣味や職業に合わせてデザインされ、メディアとしてコミュニティと交差することができます。たとえば、自分個々の本や育てた植物などを展示して、同じ趣味や職業を持っている人を探求することである。

使用者は自分のニーズによりこのモジュールを移動して、様々な居住や交流方法を創造できる。さらに、モジュールの移動を通してさまざまなタイプの公共スペースを組み合わせることで多様な活動を組織することができます。

・なぜその建物を作りたいと思いましたか？ またなぜ応募しようと思いましたか？

いつも住宅の中にあるコミュニティ、人と交流する時間について考えていましたが、今回はそれを考えるいい機会をいただきました。

典型的な家では、ベッドルームや物置部屋、リビングなど1つの家族に1つの家と言った形で不動産は区切られています。

リビングがあったとしても日中は仕事で家を出て、帰ってきても1時～2時間晩ご飯を家族として自室へもどる。固定されたグループでのコミュニケーションではなく、他のコミュニティとも時間を共有できるような住宅を作っていきたいと考えました。

・実現するとしたらどこでつくりたいですか？

この企画は高島平の様な一人暮らしが多かったり、空き家の多い立地に作れたらなと思っています。この様な地域に住む人たちは小さな部屋で生活をする人が多いと思うので、そういった場所に入居者や地元住民とコミュニケーションが生まれる様に、公共の場としても活用できたらと思います。

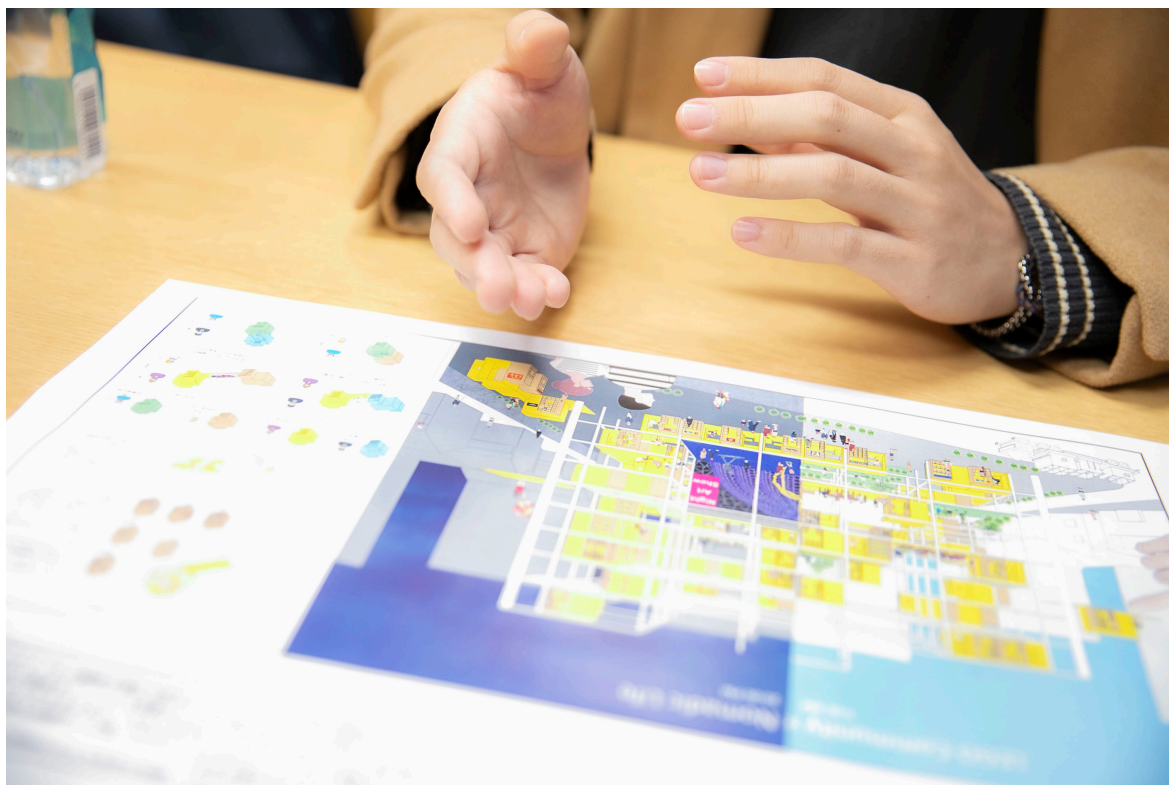
・提出作品を作るところに大変だったことはありましたか？

私の考えたデザインで最も難しいポイントは、一つ一つの住居を移動させることができる点。今回、プレハブを将来的に実際に落とし込むにはもう少し設計を考えていかなければいけないですね。

・シェアハウスに住んだことはありますか？

あります。古いシェアハウスに住んでいました。確かに、安いシェアハウスだったので家具や家電はあまり使い勝手が良いとは言えませんでした。違う文化圏の人や知らない人達と友達が出来たり、楽しかった思い出もあります。

一緒にキッチンでご飯を作ったり、ダイニングテーブルで1日の話をしたり、シェアハウスの様なライフスタイルは好きですね。



・なぜ日本で建築について勉強をしたいと思いますか？

日本はとてもとてもすごい国だと思うんです！日本は様々なデザインの建築物やオフィスなど様々な新しいビルも建てられています。

中国では、ローコストを重視した建築が多く、コンクリートで高く大きく造られるものが普通です。しかし、日本では様々な考え方から造られる建築物がたくさんあります。どんな印象を訪れた人に与えるか、どの様に生活するか、どの様に入居者の交流を生むか中身も設計する。その様な建築の考え方を学びに日本へ来ました。

・シェアハウスを作るとしたらどんなシェアハウスを将来的に作りたいですか？

もっと多様なコミュニケーションが生まれるシェアハウスを作っていきたい。入居のコストを安く、そして経済活動が生まれるようなシェアハウスの中で作れたらと思います。例えば、子供を預かってもらったらその代金を支払うような仕組みを作ったり。そういった交流も生まれるようなシェアハウスをつくりたいですね。

・最後に今回の意気込みをお願いします！

ほかの入選者も素敵なアイデアをもって、大魅力な案を出しました。私は彼らに学ぶべきですから、勝負が一番大切なことではありません。もちろん優勝はしたいですが、今ある自分の力で精一杯臨みたいと思います。